

重症患者家族のニーズに対する家族と看護師の認識の実態

－看護師の調査結果より－

Perceptions of Nurses and Families about Family Needs of Critically Ill Patients

福田 和明

<研究背景>

クリティカルケア看護師が重症患者の家族ニーズを適切に把握し、充足するための援助は責務になっている。しかし、家族と看護師では家族ニーズに対する認識にズレが存在するという指摘がある。両者の認識の実態を比較することで、適切な重症患者家族への看護援助を見出したい。

<研究目的>

ICU、CCU、救命救急センター等の施設に入院している重症患者の家族ニーズに対する家族自身と看護師の認識の実態を明らかにすることである。家族ニーズに対する「重要度」と「充足度」に関する認識と、「精神健康度」などの個人要因との関連について探究する。

<研究方法>

1. 調査対象・調査時期：関西地区の ICU・CCU・救命救急センター等に勤務する看護師、および当該施設に入院する重症患者の家族
2. 調査方法：研究参加の承諾の選られた看護師と家族に対し、個人変数、CCFNI-J (Critical Care Family Needs Inventory-Japanese Version) 43項目、GHQ (General Health Questionnaire) 12項目版で構成された調査票に無記名で回答してもらい、郵送にて返却してもらう。なお、CCFNI-J は 43項目すべてについて「重要度」(重要であるかどうかの判断、考え) と「充足度」(充足しているかどうかの判断、考え) に回答してもらう。
3. 倫理的配慮：自由意思に基づく研究参加、個人が特定されない取扱い方法、個人情報の保護、学会・雑誌等への発表の可能性などについて文書に記載した。

<結果>ここでは看護師の結果のみを報告する

1. 122施設に研究を依頼し、最終的に研究協力の選られた14施設の204名に調査票を配布し、138名から回答が得られた(回収率67.6%)。有効回答数は130名(有効回答率94.2%)であった。対象者の特徴は、女性118名、男性12名、平均33.0歳(SD6.17、23～50歳)、臨床経験年数平均10.8年(SD6.08、2～25.1年)、クリティカルケア経験年数平均6.7年(SD4.33、2～23.2年)であった。
2. CCFNI-J43項目のうち、「大変重要である」と最も回答が多かった項目は「わかりやすい説明をもらえること」であった。「充足できていない」項目は「病院内にいる間、ひとりになれる場所があること」であった。
3. GHQ12項目(最高点12点)は平均3.65、SD3.21であり、得点範囲は0～12点であった。精神的不健康とされる4点以上は、全体の45.4%であった。